

Ⅱ. プラン

～ビジョンを実現するための方針～



1

都市プラン（都市づくりの基本方針）

2

13地区プラン（まちづくりの基本方針）

都市プラン(都市づくりの基本方針)

「自立するネットワーク都市」を実現するため、都市づくりのテーマごとに設定した次の基本方針により都市づくりを進めます。

- ① (輪) ひとつつながるまちづくり
- ② 住みよさを育む都市づくり
- ③ 活力を創造する都市づくり
- ④ 地球環境に貢献する都市づくり
- ⑤ 強さとしなやかさを備えた都市づくり
- ⑥ 美しさに満ちた都市づくり
- ⑦ 連携と挑戦の都市づくり

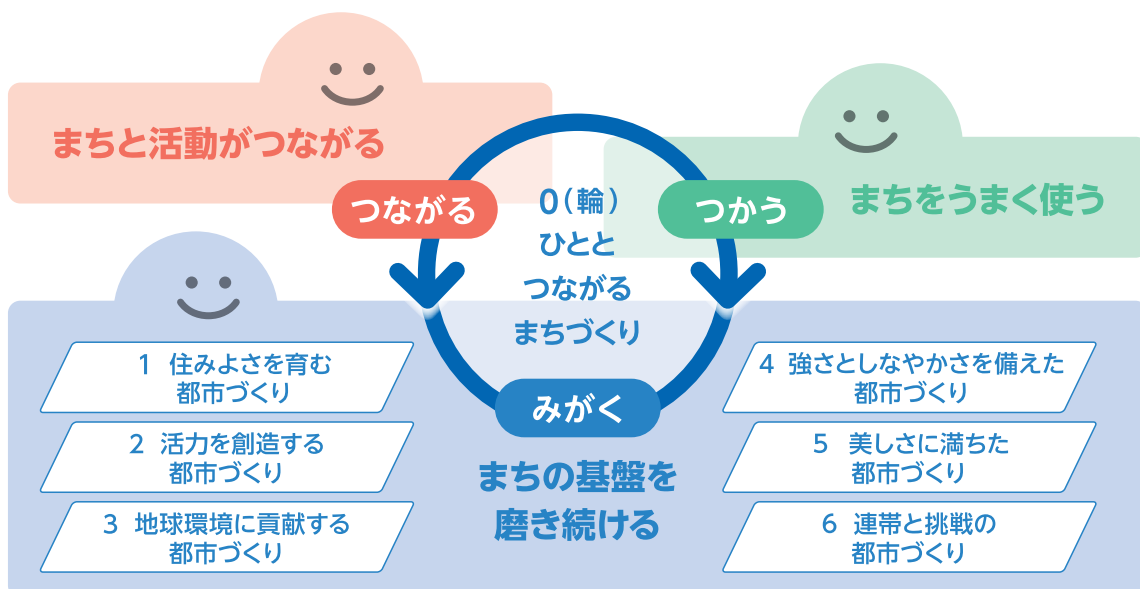
① (輪)

ひとつつながるまちづくり

～活動をまちづくりに取り込み多様な主体との連携を促進する～

まちと活動が「つながる」、まちをうまく「つかう」から生まれる新たな価値やアイデアを積極的に取り込み、また、「ひとつつながるまちづくり」をベースとして1から6までの基本方針を掛け合わせ、まちの基盤を「みがく」都市づくりを進めます。

そのために、「つながる」「つかう」「みがく」の取組から、さらに魅力を高めるまちづくりへ向けて、市民、市内外の事業者、大学や研究者など、本市と多岐にわたって関わる・関わろうとするひとと、手を取り合い連携し「輪」となって、未来へつながるまちづくりを実現していきます。



1

住みよさを育む都市づくり

～身近な暮らしを支え、健やかで心豊かに暮らすことのできる都市を形成する～

社会状況の変化とともに、人々の価値観が多様化する中で、暮らしやすさの変化への対応と、それぞれの人々が求める暮らし方もさらに多様化していきます。

本市では、身近な場や公共交通等を通じて、日常の暮らしや様々な交流・活動を支え、一人ひとりが求める暮らし方の選択ができ、健やかで心豊かに暮らすことのできる都市を目指します。

その実現のため、13地区でのまちづくりに加え、暮らしの圏域を単位として、多様な活動とのつながりを生かしたきめ細かなまちづくりを通じ、ひとに寄り添った都市づくりを進めます。

1 様々な暮らしの圏域で行うきめ細かなまちづくり

- ▶ 13地区プランの推進
- ▶ 暮らしの実情に応じた多様な圏域におけるまちづくり
- ▶ きめ細かなまちづくりの実現に向けた地区計画等の推進

2 日々の暮らしを支える都市機能の充実

- ▶ 地区拠点における生活利便機能の維持・充実
- ▶ 自宅等と地区拠点周辺や最寄り駅を結ぶ移動手段の維持・強化

3 地域の交流や活動を支える身近な場の創出

- ▶ 住民や活動団体、事業者等によって生み出される地域の特性や需要に応じた身近な場(サイト)の創出支援、促進
- ▶ 地域の多様な交流や生活サポートの充実に向けた取組の推進

4 多様性を尊重した安全・安心なまちづくり

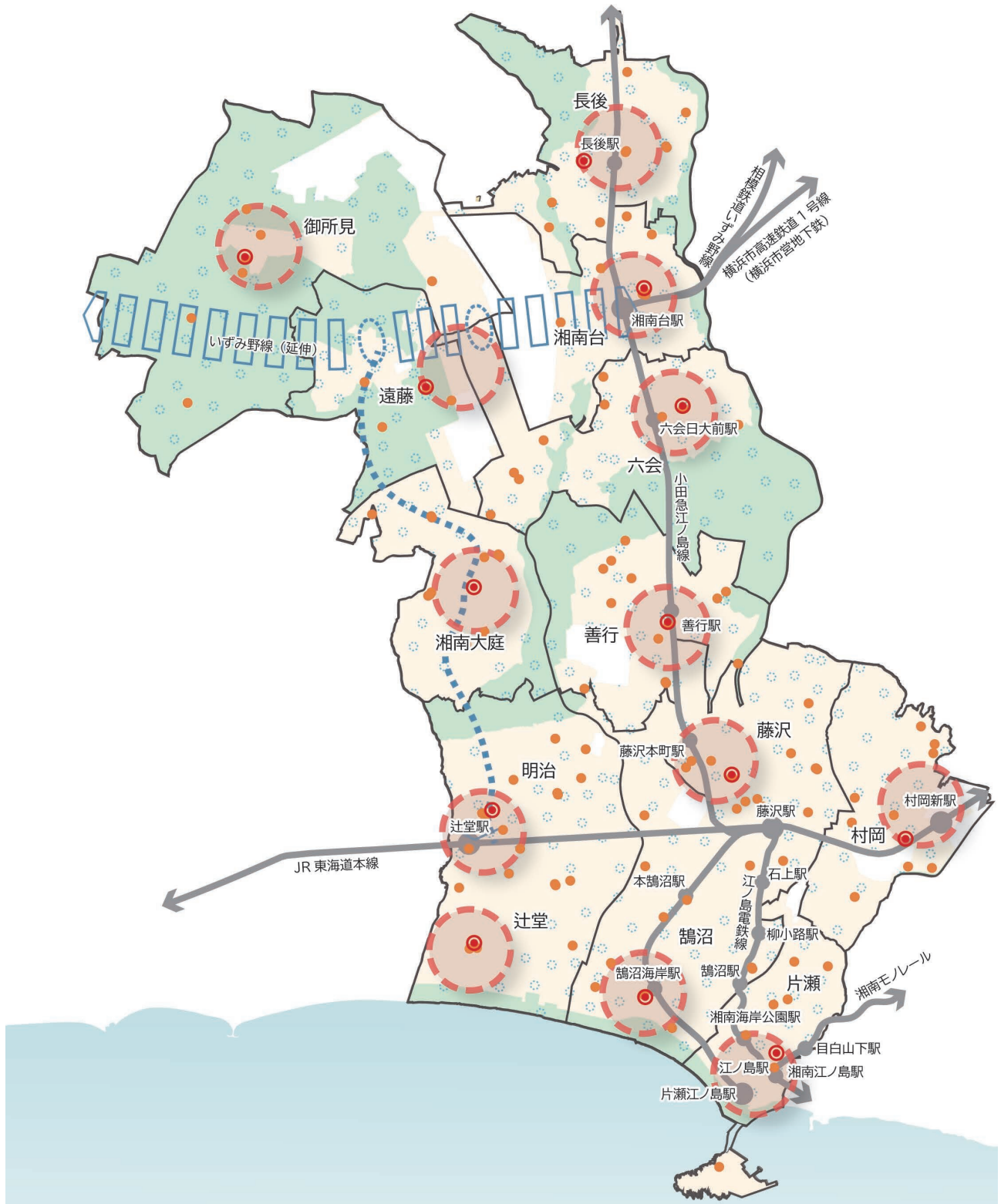
- ▶ 多様性を包摂して誰もが心地よく暮らすことのできる環境の形成
- ▶ 地域との協働による安全・安心な暮らしを支える体制、機能の強化

5 地域の特性にあった住みよさの創出

- ▶ 地域の特性にあわせた豊かな住環境の創出
- ▶ 市街化を抑制している地域における土地利用のあり方の検討



住みよさを育む都市づくり方針図



[凡例]

- | | | |
|-------------|--------|---|
| 13地区界 | 地区拠点 | コミュニティ施設（市民の家、地域の縁側、子どもの家、いきいきサポートセンター、子育て支援センター） |
| 鉄道 | 市民センター | 暮らしやすさを高める身近な場の創出を促進する地域 |
| 鉄道（計画・構想） | | 特性にあわせた豊かな住環境を創出する市街地 |
| 基幹交通（計画・構想） | | 土地利用のあり方を検討する地域（市街化調整区域） |



社会の変化に揺るがず都市の活力を持続するためには、都市を舞台とした多様な活動がもたらす活気を都市の活力として取り込みながら、ひとや産業・団体とのつながりを生かすことが必要です。

本市の6つの都市拠点の個性を磨くとともに、自然や歴史・文化に紐づく魅力をより高めることで、多様な活動や交流を呼び込み、継続的に活力を生み続ける都市を目指します。

また、これまでに築き上げたまちの基盤やサービス等を一層充実し、引き続き交通結節機能の向上を図ることで、ひとや産業が力を発揮しやすく、連携しやすい環境を形成し、さらに活力を高める都市づくりを進めます。

1 都市拠点の個性を磨き、活力を生み続けるまちづくり

藤沢駅周辺

- ▶ 湘南の玄関口として駅の南北の連携を強化した駅前空間の形成
- ▶ 多彩な活動を生み出す生活・文化拠点の形成と回遊性のあるまちづくりの推進
- ▶ 各街区にふさわしい機能を有する建物の更新及び施設管理

辻堂駅周辺

- ▶ 計画的な都市機能の維持・充実による交流を呼び込む拠点性の向上
- ▶ 駅の南北の特徴を生かした個性あふれるまちづくりの推進

湘南台駅周辺

- ▶ 計画的に整備した都市基盤を活用した魅力と潤いのある拠点空間の創出
- ▶ 多様な往来を交流や文化の創出につなげるまちづくりの推進

片瀬・江の島

- ▶ 湘南の観光拠点にふさわしい魅力を高める観光・交流機能の創出・充実
- ▶ 自然・歴史・文化を生かした景観・風致の保全・形成

健康と文化の森

- ▶ 大学や企業等の活力を取り入れた、多様な活動とひとを結ぶ拠点の形成
- ▶ 田園空間に囲まれた質の高い拠点空間の形成
- ▶ 都市や都市拠点間を結ぶ公共交通の結節機能の充実



村岡新駅周辺

- ▶ 先進的な研究開発、生産、業務機能が集積した、創造性を育む拠点の形成
- ▶ 次世代にふさわしい交通結節点の形成
- ▶ 自然を取り込んだ回遊したくなる都市空間の形成

2 産業機能を活性化させるまちづくり

工業

- ▶ 工業集積の維持・促進に向け、社会変化への対応や機能更新を支える操業環境の維持・向上や都市基盤の整備・充実
- ▶ 工業系市街地にふさわしい産業機能の維持・充実と、住工混在のある工業系市街地における住環境の価値向上も兼ね備えた取組の検討
- ▶ 新産業の森地区における緑豊かな環境と調和した工業系市街地の創出・充実
- ▶ 大学や研究機関等の知的資源を生かした新産業誘致に向けた基盤整備の促進

商業

- ▶ 都市拠点の個性に適した商業・業務・サービス等の都市機能集積の維持・充実
- ▶ 身近な暮らしを支える商店街等の商業・交流機能の維持・充実
- ▶ 都市空間の利活用や交流とにぎわいを創出するエリアマネジメントの推進

観光

- ▶ 持続可能なレクリエーションゾーンに向けた観光・交流機能の充実と環境保全の両立
- ▶ 江の島や湘南海岸の景観・風致の維持・保全と周辺環境と調和した観光・交流施設の誘導
- ▶ 観光資源を結ぶ広域的なネットワークの形成
- ▶ 海を介在した交流機能や海洋レクリエーション機能の充実

農業・漁業

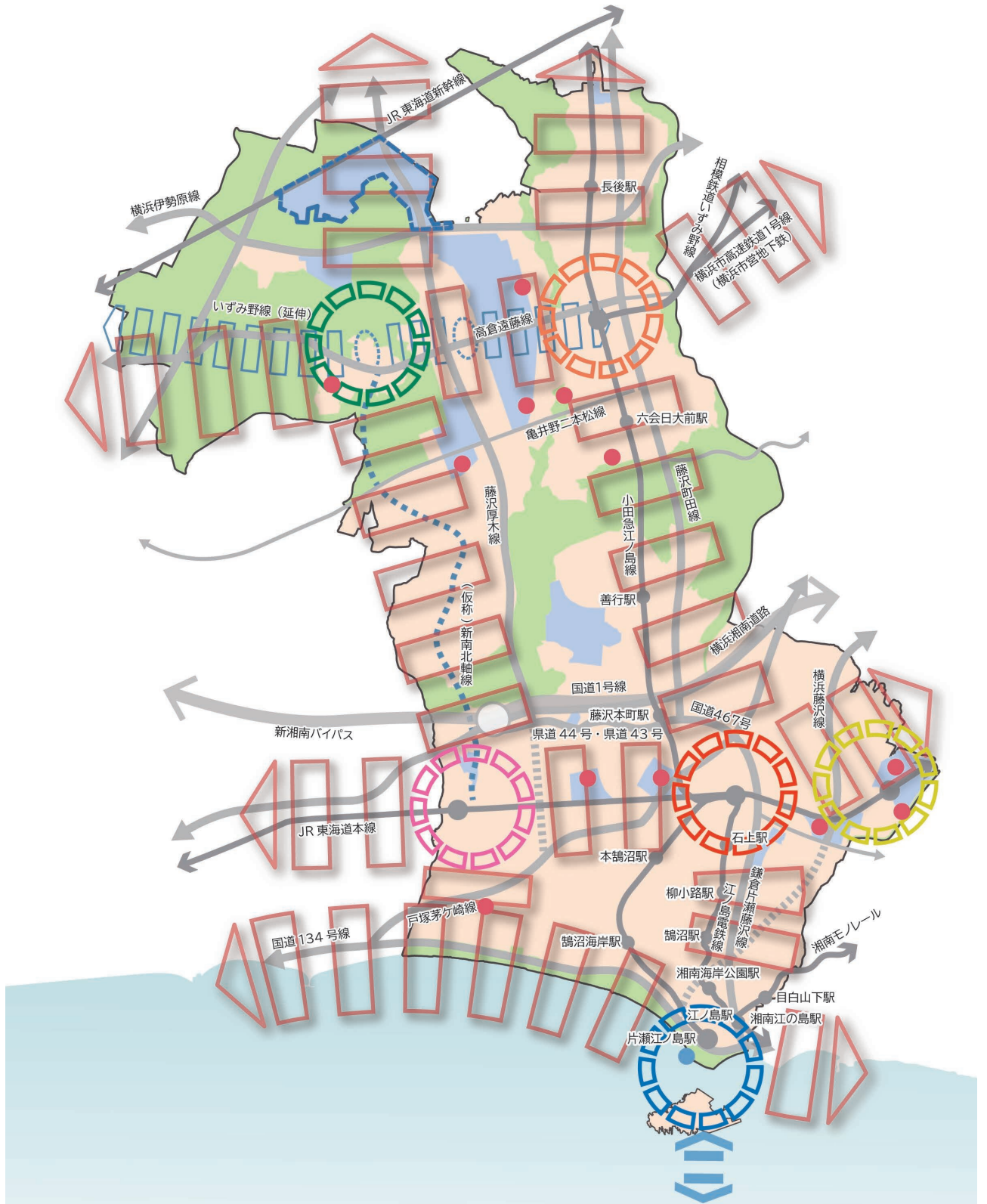
- ▶ 都市の魅力をつくり出す農地や営農環境の維持・保全
- ▶ 農業・漁業の振興を生む連携と基盤の維持・保全

3 にぎわいにつながる活気を高める場づくり

- ▶ 伝統と文化の継承や、新たな文化を創出するまちづくりの推進
- ▶ 歴史・文化等資源や自然資源を生かした活動と交流の場の創出
- ▶ お祭り・イベント・スポーツ振興等によるにぎわいの創出のための基盤整備



活力を創造する都市づくり方針図



[凡例]

○ 藤沢駅周辺「中心市街地」	■ 工業系の市街地	● 鉄道	■■■■ 海上交通
○ 辻堂駅周辺「湘南C-X連携拠点」	■ 農業・漁業を維持・保全する地域	--- 鉄道(計画・構想)	◀▶▶▶ 都市軸(広域連携軸)
○ 湘南台駅周辺「文化・交流拠点」	■ 市街化区域	--- 基幹交通(計画・構想)	
○ 健康と文化の森「学術文化新産業拠点」	■ 新産業拠点	○ 自動車専用道路	
○ 片瀬・江の島「広域海洋レクリエーション拠点」	● 漁港	— 主要幹線道路等	
○ 村岡新駅周辺「研究開発拠点」	● 大学・主な研究所等	--- 主要幹線道路等(計画・構想)	



本市に残る自然は、都市に潤いをもたらす貴重な資源であり、次世代に受け継いでいく財産として、継続的な保全・再生を図ります。

また、守るべき自然の多面性を生かすとともに、市街地にも自然を息づかせることで、緑陰の創出等による総合的な暑さ対策や雨水流出抑制等の効果を楽しみ、都市環境の向上を目指します。

さらに、世界の共通課題である温室効果ガスの削減に都市として役割を果たすため、脱炭素化やエネルギー循環に配慮した取組を進めます。

これらの実現のため、ひとが自然に親しみ、つながりを持てるように取組むことで、多様な主体と共創のもと、未来に向けて都市や地球の環境再生に寄与する都市づくりを進めます。

1 骨格的な自然空間の保全・再生

- ▶ 湘南海岸と引地川、境川を中心とした水と緑の軸及び拠点の保全・整備
- ▶ 三大谷戸や斜面緑地、里山、農地等の保全
- ▶ 豊かな生物多様性を育むエコロジカルネットワークの形成
- ▶ 水辺の魅力を生かした多様な交流と憩いの場の創出
- ▶ 河川やその流域が有する自然環境の保全・再生と治水が調和した取組の推進
- ▶ 多様な主体との協働による自然空間の回復・保全及び活用

2 みどりを育み共生するまちづくり

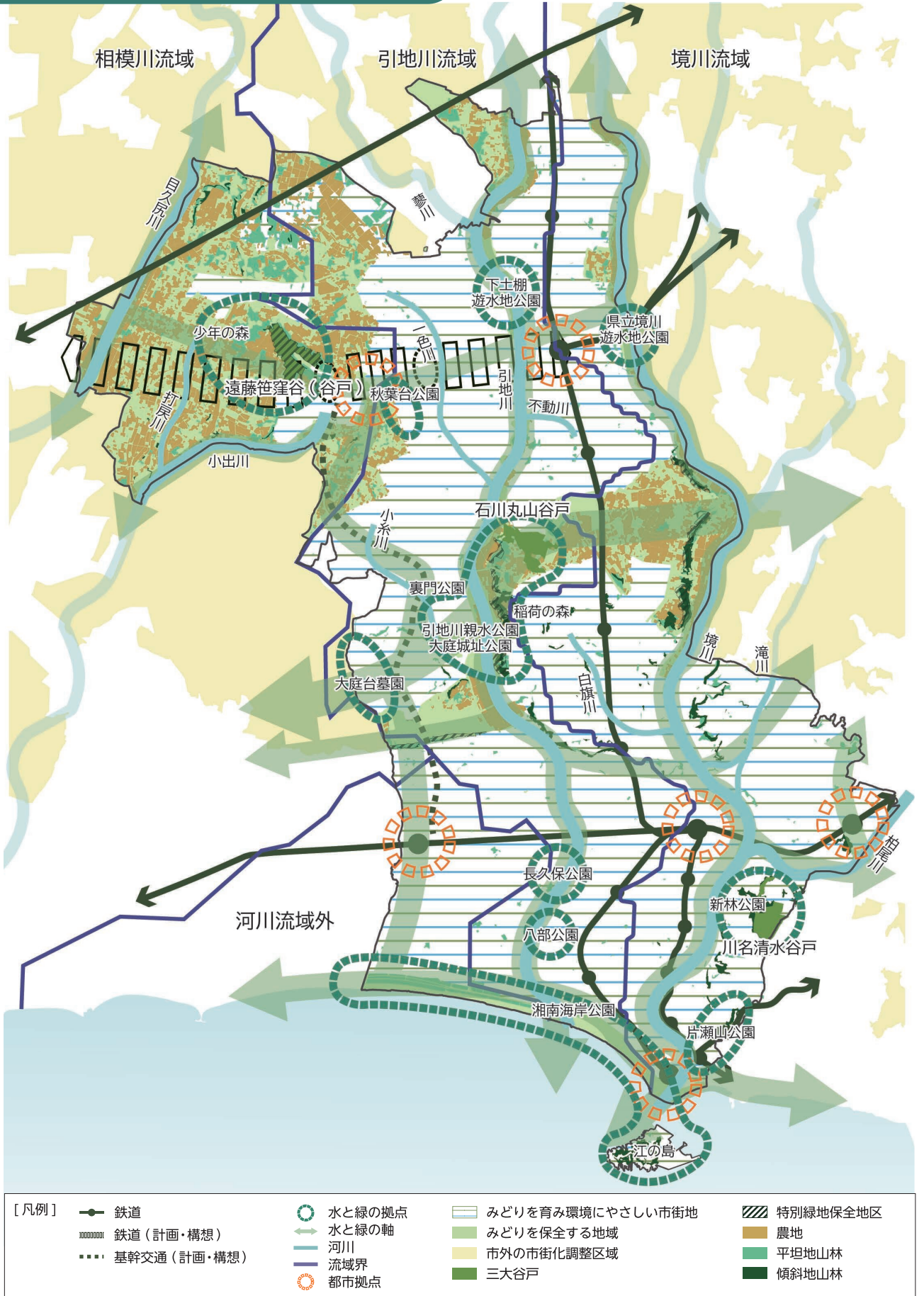
- ▶ 市街地に安らぎをもたらす暑熱対策に資する都市緑化と緑化後の適切な管理の促進
- ▶ 市街地に残る貴重な多面的機能を有する緑地や農地等の維持・活用
- ▶ 公園の適切な配置及び計画的な維持・管理
- ▶ 大規模土地利用転換時における緑地の確保や身近な生活空間における緑化の推進

3 環境にやさしい持続可能なまちづくり

- ▶ 市民や事業者等との連携による都市の脱炭素化に資する取組の推進
- ▶ 廃棄物の資源化や未利用エネルギーの活用に向けた施設整備の推進
- ▶ 生物多様性に配慮した取組の促進
- ▶ 環境負荷低減に向けた公共交通の利用促進と走行環境の充実
- ▶ 環境に配慮したモビリティや交通システムの導入に向けた検討
- ▶ 公共施設の複合化等による環境配慮の取組の推進
- ▶ 環境配慮型建築物の普及促進



地球環境に貢献する都市づくり方針図



地震や津波、風水害等都市に起こる様々な自然災害は、地球環境の変化や社会の変化に伴い激甚化・頻発化してきています。一方、都市基盤の老朽化や技術発展に伴う社会の複雑化とITインフラへの過度な依存等の都市における課題は、災害リスクの増大を招き、今後都市に甚大な被害をもたらすことも予想されます。

本市においても、津波や洪水等の災害リスクが高い地域への人口集中や、高齢単身者世帯の増加にともなう自助・共助の脆弱化等の課題が顕在化している中で、多様な大規模災害への備えがますます重要となってきています。

このことから、想定被害を最小限に抑えるための総合的な対策とともに、被災後、早期に復興が図られる復興事前準備の取組や、災害時に重要な都市機能が途絶えることのない取組を進めます。

そのため、日頃から地域や多様な主体、市が一体となって都市の強靱さにもつなげるまちづくりを進めます。

1 主体間連携による防災・減災まちづくり

地域防災まちづくり(共通)

- ▶ 住みよさや魅力向上にもつなげる避難路・避難空間の整備
- ▶ エリア特性に応じた災害対応機能の充実
- ▶ 都市基盤の被害を最小限に抑える取組の推進

地震への備え

- ▶ 指定緊急避難場所の確保に資する施設や避難路の整備推進
- ▶ 建物等の不燃化・耐震化の向上につながる取組の推進

津波への備え

- ▶ 建物等の耐震化と併せた安全でわかりやすい津波避難路・場所の整備推進
- ▶ 公共施設等における津波対策の促進

風水害への備え

- ▶ 流域治水等広域連携による減災の取組
- ▶ 土地利用における雨水流出抑制対策の誘導



2 復興の事前準備を推進するまちづくり

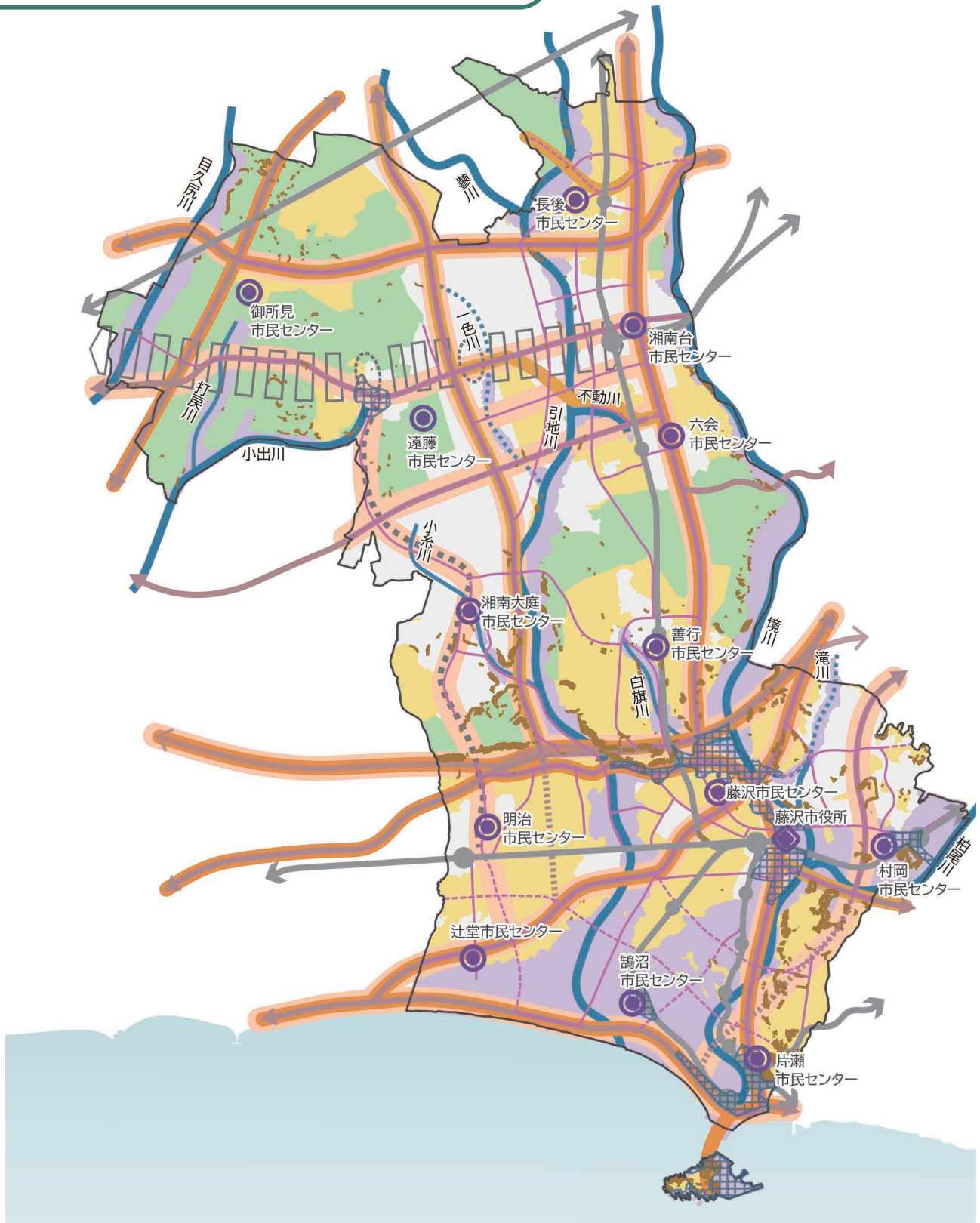
- ▶ 災害に対する事前のまちづくりに関する計画の検討
- ▶ 早期の復旧やより良い復興に向けた多様な主体や他自治体との共有・連携の促進
- ▶ 基礎データ等の整理・分析による復興まちづくりの推進
- ▶ 復興まちづくりを先導する人材育成及び災害リスクに関する意識の啓発
- ▶ 防災力の強化にもつながる日頃からのまちづくりの促進

3 都市機能が持続的に発揮できるまちづくり

- ▶ スtockマネジメントによる計画的なインフラ施設等の維持管理の推進
- ▶ 建物の長寿命化に向けた取組の推進
- ▶ 災害時の重要な都市機能の継続的な維持及び円滑な復旧



強さとしなやかさを備えた都市づくり方針図



[凡例]

- | | | | |
|------------------|--------------|-------------|--------------|
| 津波・洪水・高潮の対策検討エリア | 総合治水対策を進める河川 | 緊急輸送道路(第1次) | 市街化区域 |
| 土砂災害の対策検討エリア | 改修事業を進める河川 | 緊急輸送道路(第2次) | 市街化調整区域 |
| 先導的な災害対策検討エリア | その他の河川 | 避難路(不燃化) | 土地区画整理事業実施区域 |
| 地区防災拠点本部(市民センター) | 鉄道(計画・構想) | 避難路 | |
| 藤沢市役所 | 基幹交通(計画・構想) | 広域道路体系 | |



5

美しさに満ちた都市づくり

～これまでに築いた資源を磨き続け、洗練された都市を継承する～

緑を湛え潤いを運ぶ河川や湘南海岸等の地形による豊かな自然に加え、恵まれた交通体系とその結節点に栄えた都市拠点で都市構造の骨格を成し、商・工・住を適正に誘導して市街地形成を図ってきました。これらの都市構造を継続的に築き上げ、都市に深みをもたらす本市固有の歴史・文化及び地形との調和を図り、都市の質を高めることを、都市の「美しさ」と捉え、都市の個性や価値を高めてきました。

成熟社会を迎え、培ってきた都市の美しさを地域と多様な主体でさらに洗練し、未来に引き継いでいくことのできる都市を目指します。

その実現のため、引き続き、これまで築き上げてきた都市構造を継承しつつ、必要に応じて都市空間や都市機能のR・デザインを行いながら、美しさに磨きをかけ、次世代に継承する都市づくりを進めます。

1 湘南・藤沢の魅力をも高める景観形成

- ▶ 水と緑の自然景観軸とみどりの景観拠点を生かした景観形成の充実
- ▶ 都市の景観の拠点となる都市拠点等の景観づくりの推進
- ▶ 良好な街なみやゆとりのある住環境の維持・形成

2 未来を見据えたまちの再構築

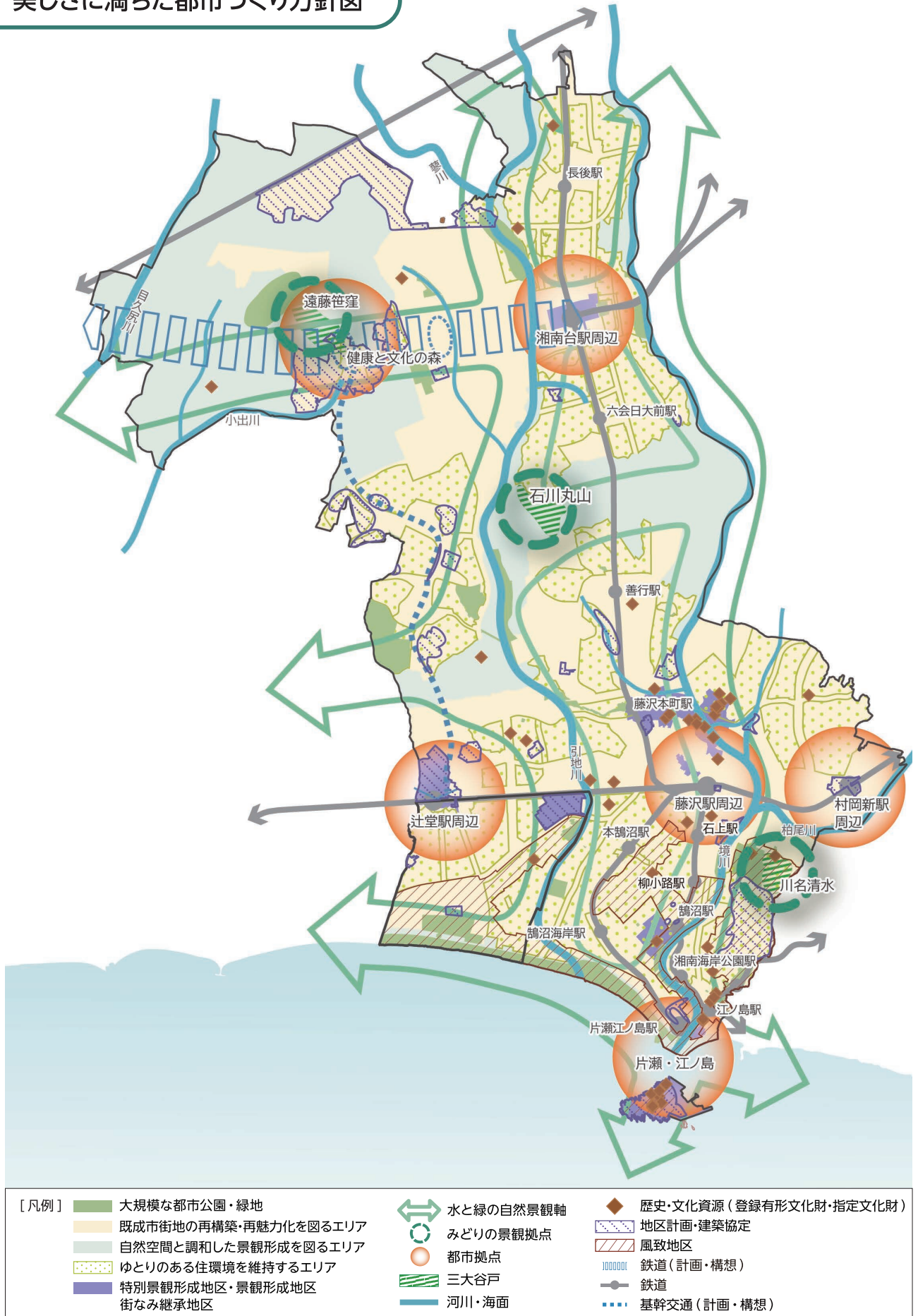
- ▶ 成熟化した既成市街地の再構築・再魅力化
- ▶ 社会状況の変化を見据えた都市施設等の都市計画の見直しの検討
- ▶ 社会の変化や地域の状況等を踏まえた住居機能のあり方の検討
- ▶ 公共空間や低未利用地等の既存ストックの利活用の推進
- ▶ 都市拠点における土地利用の規制誘導と交通を連携させたあり方の検討
- ▶ 大規模土地利用転換時における都市計画制度を活用した適切な誘導

3 愛着や誇りを育むまちづくり

- ▶ 居心地が良く歩きやすい回遊性のあるまちづくりの推進
- ▶ バリアフリーやユニバーサルデザインに配慮した都市基盤整備の推進
- ▶ 魅力ある場をつないだ回遊したくなるネットワークの充実
- ▶ 文化の創出・発信や、興味・学び・活動を喚起する多様な場の形成促進
- ▶ まちの魅力を次世代へ継承するまちづくりの検討・推進



美しさに満ちた都市づくり方針図



人口減少や環境問題をはじめとした近年の様々な社会における課題は複雑化してきており、本市においてもひとやまちが果たせる役割が日々変化し続けています。その中で、本市では、恵まれた交通体系や大学や研究機関等といった施設も多く立地し、多様な課題等に挑戦できる下地が形成されています。

教育・研究分野・医療福祉等に代表される多様な高次都市機能や供給処理等の連携のあり方も変化しており、併せてそれを支える広域的な道路・交通ネットワークやデジタルインフラの整備・連携も重要となってきています。

本市が持つ挑戦できる下地を生かしながら、デジタル技術等に代表される新技術の導入にも積極的に取り組むことで、ひとやまちの世界を広げ、新たな価値やイノベーションの創出につなげることを目指します。

このような都市を実現するため、あらゆる状況に柔軟な対応をし、まちづくりの新たな展開や可能性を高めていく情動的・技術的連携が図られるよう、常に挑戦をし続けるとともに、それらを支える都市基盤を継承することができる都市づくりを進めます。

1 多様な高次都市機能との連携によるまちづくり

- ▶ 環境共生モデル都市圏の形成
- ▶ 大学や研究機関等の高次都市機能相互の連携促進とまちとの交流の場の創出
- ▶ 産業集積や産業集積間の連携を促進する道路・交通ネットワークの整備推進
- ▶ 複合化や機能分担を踏まえた施設のあり方の検討

2 社会課題を起点として連携し挑戦するまちづくり

- ▶ まちの様々な場で挑戦しやすい風土の創出
- ▶ 地域課題やニーズに応じた新技術の積極的な導入と交流・連携の促進
- ▶ 移動しやすさを向上する、公共交通の充実と交通手段間の連携・再編等の検討
- ▶ 地域特性に合わせた移動を生み出すモビリティ導入に向けた検討・実証
- ▶ 長期的・持続的・広域的な視点を踏まえた取組に関する必要性の検討
- ▶ デジタル技術を用いた基盤の維持管理とライフライン維持業務の共通化の促進



3 広域的なネットワークとデジタルインフラの整備と連携・交流の促進

- ▶ 都市拠点と他都市を結び、交流を促進する広域交通網の整備・充実

【鉄道等】

JR東海道新幹線新駅設置の促進、いずみ野線延伸、JR東海道本線と小田急線の輸送力維持・強化、南北方向の新たな交通システムの取組の推進

【主要幹線道路等】

横浜湘南道路・高速横浜環状南線(首都圏中央連絡自動車道)、武相幹線(新東名高速道路)の整備促進

国道1号線、国道134号線、国道467号、藤沢町田線、鎌倉片瀬藤沢線、県道45号、横浜藤沢線、藤沢厚木線、亀井野二本松線、戸塚茅ヶ崎線、遠藤宮原線、高倉遠藤線、横浜伊勢原線の整備促進・維持更新

- ▶ ロボット産業等、ひとに代わる活力を生み出す産業機能の誘致・充実
- ▶ 都市におけるデジタルインフラの維持・更新と多様な分野におけるデータ利活用の推進



